きらり

人権・同和教育保護者だより　第46号
小松高等学校ＰＴＡ人権教育部
令和２年９月発行

☆第１回人権・同和教育ホームルーム活動

１年　より良い人間関係を作ろう

ＰＴＡ人権教育部の活動計画

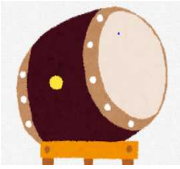
竹林整備	年３回
西条市人権・同和教育講座（～12月）	~~５月~~
市内五高校人権・同和教育連絡協議会	~~６月~~
いじめ問題対策委員会	７月
体育大会販売	９月
きらり46号の発行	９月
小松高祭~~販売~~	10月
ウォークラリー大会補助	11月
人権・同和教育ホームルーム活動~~公開授業~~	11月
きらり47号の発行	２月

２年　差別はどのようにして作られたのか

３年　確かな進路保障のために

○「私たちのものがたり～いま被差別部落を生きる～」（目撃！にっぽん）を鑑賞して

私が部落差別というものを知ったのは、30年程前の学校教育でした。その頃の私は、部落差別は社会のいじめだと感じていました。江戸時代、被差別部落の人々は、特定の土地に住まわされ、他の身分との交流も厳しく制限されることになりました。死んだ牛馬の処理や皮なめしという社会に欠かせない仕事をするにもかかわらず、「けがれている」と言われ差別されました。被差別部落に住んできた宮内さんは、父親から受け継いだ太鼓職人です。太鼓は生き物の皮を使用していて、奪った命に対して「ご免ね、ありがとう」という気持ちをもって丹念に作っているそうです。この地域に住む人たちは、苦しい現実と向き合いながらも、人との関わり合いを大切にしていて、私たちが普段生活している当たり前の生活を送りたいだけなんだと感じました。それでも、被差別部落のことを多くの人に知ってもらいたいと活動する人たちに対して、インターネットを使った中傷や、自宅や家族の名前をさらされたりという悲しい事例が尽きません。当たり前とは何か、差別が何を生むのか。一人一人が真剣に考え、誰もが明るく生活ができるよう子どもたちや次世代のために差別をなくしたいと強く思います。



○「竹内まりや～いのちの歌のものがたり～」（Music&Life特別編）を鑑賞して

昨年末の紅白歌合戦をご覧になった方も多くいらっしゃると思います。その中で、シンガーソングライターとして活躍されている竹内まりやさんが初出場し、大きな話題となりました。数多くある名曲の中から選曲されたのは、「いのちの歌」でした。生かされていることへの感謝の気持ちを、歌で表現したいとの思いから作詞されたそうで、多くの人の心に届くような歌詞になっています。

この曲に幼いわが子を亡くした女性は、悲しみから抜け出し前を向く力をもらい、また廃校になる小学校の児童は、地域の人への感謝を込めてこの曲を歌っていました。「大事なものは隠れて見えない」、「日々の中にかけがえのない喜び」は、歌詞の一節です。失ってからでは遅い大切なもの、日々の感謝の気持ち…。この曲を聴いて、いろいろ考えさせられました。皆様も機会があればぜひ聞いてみてください。

☆いじめ問題対策委員会

昨年いじめ防止基本方針を改定しました。

☆人権作品鑑賞会

樹木希林さんの『あん』を見ました。

☆現地研修会

林田哲雄さんについて学びました。

いのちの歌　竹内まりや

作曲：村松崇継

作詞：Miyabi（竹内まりや）

生きてゆくことの意味 問いかけるそのたびに
胸をよぎる 愛しい人々のあたたかさ
この星の片隅で めぐり会えた奇跡は
どんな宝石よりも たいせつな宝物
泣きたい日もある 絶望に嘆く日も
そんな時そばにいて 寄り添うあなたの影
二人で歌えば 懐かしくよみがえる
ふるさとの夕焼けの 優しいあのぬくもり

本当にだいじなものは 隠れて見えない
ささやかすぎる日々の中に
かけがえない喜びがある

いつかは誰でも この星にさよならを
する時が来るけれど 命は継がれてゆく
生まれてきたこと 育ててもらえたこと
出会ったこと 笑ったこと
そのすべてにありがとう
この命にありがとう